

テーマ「造形表現」

様々な素材に出会い探究することで素材について知る。イメージを広げて素材を選び、その素材の特徴を活かして表現する楽しさを味わう。また、子どもたちが作った作品を展示することで、他の子どもたちの表現や考えに触れる機会を持つ。

②アトリエの活用「土粘土」

これまで、園内にあるアトリエは主に子どもたちが保育室でなにか作ったりする際に、素材や道具等を取りに行くための場所として使われていました。そこから一歩進み、アトリエが保育室の遊びを発展させるヒントを得られる場所、少し新しい遊びや素材と出会える場所になればという願いを持ち、今回アトリエでの活動を行いました。

「土粘土」と出会う



保育室で、油粘土や紙粘土でよく遊んでいる姿があることや、行事「ココロフィラレ」の感触を楽しめるコーナーで、様々な種類の土に触れてきた経験から、まだ園内では遊んだことがない「土粘土」を新たに会う素材としてアトリエで遊べるよう環境を用意してみました。



土粘土はあえて一人一人に分けず塊のまま提供しました。また、はじめは素材そのものと向き合って欲しいと考え、道具類は出さずにはじめました。



土粘土を初めて触り、「ふにゃふにゃしてる!」「べちょべちょしてる」と思いを言葉にしていました。また、足で踏んでみたり、粘土の上に横たわってみたりと体全体で土粘土そのものの感触を楽しんでいるようでした。



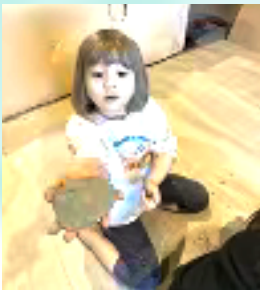


土粘土に指を入れると、指が奥まで入る事に気づき、「指で道を作ってピタゴラ装置みたいなのが作れるんじゃない？」と閃いたようです。転がす玉も作り、初めはペタペタとくっついて転がすのに苦戦する姿がありましたが、「時間が経ったら固くなるんじゃない？」と考え、土粘土の特性を遊ぶ中で理解し、土粘土を使って何かを作る楽しさも感じているようでした。

「土粘土で靴を作って履いてみたよ！」

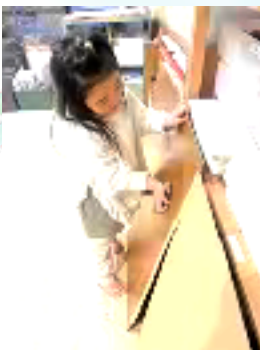
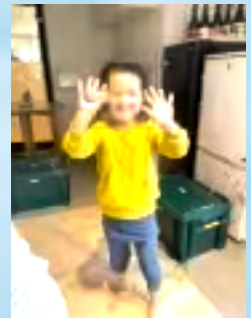


「伸ばしたらミミズみたいになったよ！」



「丸めて床に投げたら平らになったよ！」

「お煎餅みたい」



手や足の跡が土粘土につく様子を面白がったり、粘土の張り付くという性質に着目して遊びを広げている子もいました。また、イメージしたモノを細かく表現することを楽しんでいる子もいました。素材と出会い、触れる中で特徴を知り、遊びを深める時間となりました。

振り返り

・今回は「土粘土」を取り上げて活動を行った。保育室で同じように土粘土の環境設定を行うことは少し難しさもあるため、アトリエならではの素材との出会いを今後も模索していきたい。また、長期的にいつでもアトリエで遊べるよう環境設定をしたことで、各クラス日常的に繰り返し遊ぶことができ、素材への理解を深めたり面白さを知る機会を持つことができたと考える。今後も子どもたちの興味や関心に沿った素材や遊びをアトリエで提供し、探求を深め、自分たちの遊びとして取り入れていってもらえるよう、アトリエをより充実した環境として整備や設定をしていきたい。